



広 報

な が つ え

49年12月号

第132号

発行所
編集発行人
大分県・日田
中津江村
齊藤隆一



柿の実とほし柿

赤い鈴なりの柿

小枝たわわに鳴り響く

青く、広く澄みわたる

空の果てまでとどくよに

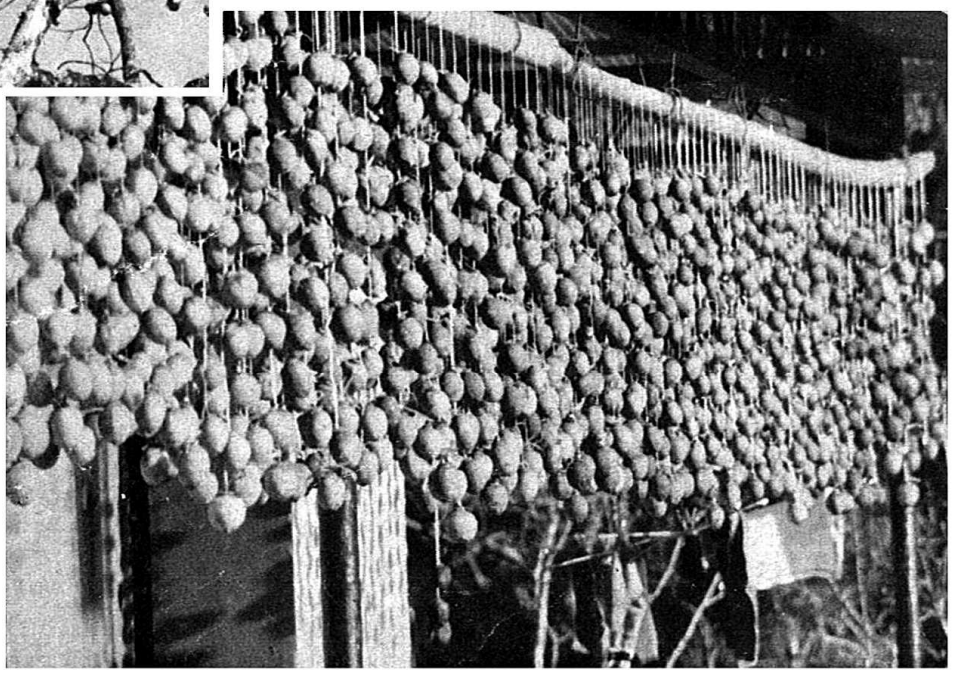
丁寧のひとつひとつ服はがれ

きれいにつるされた軒先で

冬の日ざしをあびながら

裸の柿もころもがえ

やがては……



人口の動態

昭和49年11月30日現在	
人口	2,503人
男	1,183人
女	1,320人
世帯数	619戸

考えよう食糧問題

—生産調整5年目を迎えて—

米の生産調整（減反）が昭和四十四年から実施されて五年目を迎えました。その実態はどのようなものか。このことについて考えてみたいと思います。

水田30%減る

左表をみると中津江村における最高作付面積は一〇九haあったのが昭和四十九年には約七八haになり差引き三一ha減反しています。その減反の内訳は普通転作（野菜等に転作すること）に約一・五haで、永年性植物転作（スギ・茶などに転

作すること）に約二五・七ha、休耕四haです。昭和四十九年の作付面積が四十八年より増えているのは、四十九年度より休耕地に対する減反奨励金が打ち切られることなどの理由によるものと思われます。またこの生産調整は来年度までで以後どのようなかは現在のところわかりません。世界的食糧不足が生じている現在の流れに逆行しているように感じられ、この政策に矛盾があるように思われます。



杉が植えられた水田

減反政策の

残したものは？

この政策によってどのような現象が現われているのでしょうか。山間部の多い当村では平野部に比べて、マイナスの面が多いと考えられます。

四十九年には三一ha減反になっていますが、もしこの減反した田を以前のように入水稲のできる田に復元するには、どれだけ年数がかるのでしょうか。普通転作の約一・五haは一年、永年植物性転作の二五・七haは五年程度、休耕地は三年程度かかると考えられます。つまり昭和四十九年の姿にもどすには最低五年間かかるわけです。しかし、永年性植物に転作した田を復元することは大変困難な作業と考えられ、果たして全部できるか問題です。この生産調整問題について根本から考える必要があります。

困難な減反田の復元

世界的食糧不足が新聞等で報じられている今日ですが、世界の事情はどのようなものか。現在日本は自給自足ができて、世界の実情はどのようになっているのでしょうか。きず外国から食糧輸入ができません。自給率はイモのシッポまで入れて約六〇%しかないといわれています。世界で生産される食糧は十億六千万トであり総人口三十九億人が生きるのに八億ト、家畜飼料として四億一千万ト、計十二億一千万トで差引一億五千万ト不足しているといわれます。

生産調整

年度	中津江村における最高作付面積	転作			休耕	作付面積
		普通	永年性植物	計		
44	10,921.1 a	0	0	0	0	10,921.1
45		-	-	1,254.4		9,666.7
46		434.7	1,601.5	2,036.2	613.0	8,271.9
47		322.0	2,076.6	2,398.6	463.7	8,058.8
48		203.0	2,526.0	2,729.0	408.0	7,784.1
49		146.0	2,565.0	2,711.0	400.0	7,810.1

100アール=1ヘクタール(約1町歩) 各数字は累計

自給できるのは

米・茶など

ところでこの食糧不足が当村をおそれた場合、どれだけの食糧の自給ができるでしょうか。現在当村の自給できる作物は米と若干の野菜類、当村の特産物のみです。このことは考える必要があります。

これは平野部で生産調整しても野菜類の生産ができません。これに対する販売ルートがあり採算がとりやすい。しかし当村においてはそれらを生産しても販売しにくく、永年性植物などを植えるような状況です。このことは作物を生産する意欲の低下が生じ、出稼ぎにもつながるのではないかと考えることができます。



春の田植え風景

ワサビはわが国原産の香辛作物で高級な香辛料として、その独特な風味、香味、辛味の点で最も優れた作物である。刺身のツマ、すし、めん類の添えものとして用いると食欲を増すだけでなく、魚毒を消すといわれ、その需要は伸びる傾向にある。

ワサビは大部分の都道府県でいくらか生産されるが主産地は静岡、長野、島根、広島、山口の各県で、九州地方では福岡、佐賀、熊本、各県に少量生産されている。大分県では由布山麓に野生のものがあるようにきくが、このほかでは津江地方が唯一の産地である。

ワサビの栽培面積は正確な資料がなく、はっきりしたことは言えないが、およそ全国で六〇〇ヘクタールだといわれている。最も多いのが静岡で全国の約四〇%をしめている。生産量は栽培方式等により、上下の差がはげしく比較がむずかしいが、坪当り(三・三平方米)平均二kg前後、反当り(一〇アール)平均六〇〇kgが全国生産量の基準である。

ある。栽培方式は大きく分けて四種類あるが、現在、主として利用されているのは静岡県の伊豆壺式と中国地方(島根・鳥取・山口)の地沢式である。

ワサビの栽培は適地であるかどうかといふことできる。最も重要なことは土地の選択と水資源である。



“特産物シリーズ”

その4

水質、水量、水温の適合が絶対条件である。すなわち山間の冷涼な清水が多量に湧水するところで、その水温が年間を通じて摂氏十二〜十五度くらいが最適である。

津江地方のワサビの歴史は記録的に明らかではないが、伝えられることによれば

三〇〇年前後ごろから林間の山麓、沢辺などの湧水、清流の谷間、湿地などに野生として繁殖していたものである。原産ははっきりしていないが、中国地方(島根、山口)から山師などによつて持ち込まれたものといわれている。むかしは茎や葉を塩漬けにしたり、味そ汁に入れて食べ、「山のみずな」と呼ばれていた。根は行商人等によつて福岡熊本、日田方面に販売されていたようである。村のワサビが特産物として本格的に栽培されはじめたのは、昭和二十五年からである。ワサビは捨てる部分が多い。芽茎、吸収根までワサビ漬の加工原料として使われている。生ワサビの根は高級野菜として一流のすし屋、料亭、旅館等が主な消費先であり、高価なときは1kg当り一万円を越えることもある。供給の方は停滞ぎみで、最近では山林の伐採や病害の発生などで全国的にやや生産低下の傾向にあるといわれ、そのためますます高価に取引されているよ

うである。村のワサビ栽培も水ワサビは適地が少なくなり、現有一ヘクタールが限度と思われる。また根ワサビは量的に需要に応じきれないのが大きい悩みである。これからのワサビ栽培

(文化財紹介)

菊地の七人塚

柿の谷部落の赤星三男氏の屋敷内に、菊地の七人塚と呼ばれる塚がある。

二m四角位の石積み墓であるが、その上に大小七個の自然石が環状に立てられ、外敵に対する防禦の形式をとっているといわれる。ここは菊地家の家臣で赤星源内といわれる家老とその



の奨励は容易に生産できる畑ワサビの増殖と現有の野生ワサビの肥培管理に重点をおき、加工用ワサビの増産と優良根ワサビの栽培を併せ、指導奨励するようにしたい。(産業課)

の叔父になる人と家来四人の六人が戦に負け、ここまです落ちてきて切腹し埋葬されている墓といわれている。七人塚と呼ばれているが六人埋葬されているといわれ、十一月十一日が命日で毎年供養されていることである。

現在の赤星家はその子孫であるといわれ、以前は戦の道具等が残されていたようだが火災になり焼失したとのことである。

中津江村には七人塚と呼ばれるものが多数あり、他の地区にはみられない特色があるが、これは南北朝時代における地形的な要所として戦が行なわれ、それに関連するものと予想される。

〈シリーズ〉

わたしのふるさと

—その3—

丸蔵小のこどもの作文より

私のふるさと

石川 美穂



私のふるさととは緑がとっても多い。水もきれいだし、空気がいい。そんなところが私は好きだ。それとくらべて、とかいを見たら……いなかの人はどう思うだろう。とかいの人はいなかはきれいなんでしょうか。とかいの人がいなかへきたら、「ここはとってもいいね」とだいたいの人はい。私がおとなになったらどう

ふるさととは？…と目の前にいる方へ質問を試みて下さい。すぐに返事のできる人は少ないようです。それほど微妙な言葉「ふるさと」。

辞書でふるさとという言葉の意味をみると、自分が生まれた土地、いたことのある土地、また、昔、ある事があった土地と書かれています。人、それぞれの心に書かれたふるさととは？……

今回は丸蔵小五年生による「私のふるさと」の作文を紹介いたします。

なるだろう。このまま緑が多くて水がきれいで空気がきれいなのか。それとも、とかいになるのか。とかいになるなら反対する。ぜったい！ぜったい！……このまま緑が多く、水がきれいで、空気がきれいな中津江村でいてほしい。時代がかわってゆくが、美しい自然の中津江村で、ずっといてほしい。

ぼくたちの村

伊藤 寛明



ぼくたちの村、中津江村は大分県の県境に近い山間部にあるが、杉の多い山やきれいな水に囲まれている。自然にめぐまれた村だ。春になると、わらびとぜんまいがたくさん芽をふきだし、四月ごろにはさかんにわ

らび取り、ぜんまい取りがあちこちで見られる。きれいな水のためにわさびにもよく、品質の高い良いわさびがとれる。中津江の茶は香りと味のよいことで知られている。もうひとつしいたけもできています。農協の人達が、大分市のデパートにわさび、茶、しいたけのせんでんに行ったそうだが、その人たちの話をきくと、たちまちのうちにうり切れてしまったそうだ。

川では、イダ、エノハがよくつれるので、土曜、日曜日には村内の人達ばかりでなく、福岡県や熊本県からもつぎつぎにやってくる。今、中津江村の人口は二五〇〇人ほどで、一方だ。それは村での仕事が少ないことと、収入が少ないために遠くは大阪、名古屋など県内では工業地帯の方面に転居してしまったり、出かせぎに行っている。ぼくは中津江村には、よそにくらべて良い品質の特産物が、年々ふえていくのを知って、今後ますますさかんになるだろうと思っ

私のふるさと

真弓 幸子



私のふるさととは、中津江村だ。自然のいっぱいある中津江村。すんだきれいな川、それが私のふるさとだ。でも、その中津江村がいつかはなくなるのだろう。いつかは働く人もいない、老人ばかりの村になるだろう。今でも、働らく所がなく、少ない人口だ。そんな時は「もっと働らくところがあつたらなあ」と思った。働く所があれば、人口もふえ、この中津江村も有名になり、自然もまもれる。そんな中津江村がほしい。でも、人口はへるばかりで多くなることはない。それはでかせぎなどにいっているからだ。その時は、「大きくなつたら、この村に残ろかなあ」と思った。

婦人の広場

不用品即売会

をおこなって

今年度の活動のひとつとして不用品即売会を先日の文化祭で実施しました。この時の状況を報告します。物価高の現在において家庭で使用されていない物を活用し、物を大切にする心構えと会員の協力を目的としました。

即売会実施目的と要領を役員会で話し合い、会員の方に周知しました。開催前日に持ちよった品に夏、冬物の別、既製品かあつらえか、いたみぐあい等を考えて値段をつけ、当日は販売、会計等の係を決め、会員の協力で開催しました。会場には五十〜二千元の値段別コーナーをつくりました。とにかく初めてのことで、売れるだろうか、と大変心配でした。しかし思ったより盛会で出品点数三〇〇点のうち半分程売れ、金額にして三六、

三五〇円になり、この一部を支部に返金し、残金を村社会福祉協議会に寄付、残りの品は施設に寄付することにしました。おかげをもちまして不用品即売会も無事終了することができました。この即売会において良かった点は婦人会の存在意識が高まりつつあり、物を大切にすることを高まったことで、悪かった点として会場と時間の変更で一般の方に連絡が徹底しなかったことでした。この即売会をまた実施してもらいたいという声もあり

青年の広場

交通安全

を願う

中津江村青年団ではこのたび奉仕活動の一環として辛味バス停留所横の交通安全塔の塗りかえを行ないました。

この交通安全塔は、五年前先輩たちの手で立てられ

たということ、その後一度も塗りかえられておらず最近では標語の文字すら読めない程になっていたもので、交通安全を願う先輩たちの意志を受け継ぐべく行なわれたものです。最近では当津江地区においても交通事故が続発しており、そういった意味からもこの交通安全塔がドライバー一人一人の自覚を高めるために一役買ってしてくれることを期待したいものです。なお、村内には他にも三



ヶ所程交通安全塔が立てられており、今後も毎年一ヶ所づつ塗りかえを実施するということです。

ました。これからも実践活動をすすめるには必要な学習と奉仕の

教員住宅 完成する

引野に丸蔵小教員住宅が完成しました。一棟二戸住宅で本工事六四〇万円、付帯工事約一六五万円、計八〇五万円かかりました。この住宅は当初丸蔵小の近くに予定していましたが、



精神なくしてはできないことと思います。

新民生委員きままる

なかなか場所が定まらず、引野に落ちついたものです。

前民生委員の方が十一月末にて任期満了となり、その間、住民の福祉に何かと指導推進に協力下さいましたことを厚くお礼申し上げます。従って十二月一日付、厚生大臣、大分県知事の委嘱により次の方々が村民生委員に決定いたしました。△川野信男△安岡セツ子△梶原美民△松野芳雄△永瀬勲△北村益都△川良停△長谷部忠夫△斎藤成子(敬称略)

民生委員は社会奉仕の精

神をもってみなさんの保護指導にあたり、福祉の増進に務め、老人、母子、心身障害者、児童等の幸福を進めるため、いろいろの相談に応ずるもので、関係する業務に協力し問題の指導開発に努力するなど、現在の社会情勢を把握、推進するもので、新民生委員さんの活躍が期待されています。なお、全員の方々が近く国民年金相談員としても県知事より委嘱される予定です。

〈健康メモ〉

おかあさん “うす味の食生活を”

だんだん寒くなってきました。寒くなると気になるのが血圧です。でも、その心配をする前に若い人達にも、働きざかりで健康を自慢にしている人達にも聞いて欲しいのです。なぜ、うす味の食生活をすすめるのかを。

今、問題にされているガンを除く成人病は、若い時から、の生活の “あか” がつみ重なって起こって、くるといわれています。その中で食習慣の占める位置は大きいのです。何年も何十年もかかって蓄積された生活の “あか” を一度に落してしまおうとすること自体、無理なのです。習慣を変えていくことは大変なことでは

よう。でも、その習慣を地道に変えていくことが必要なのです。うす味にする。まず第一に、塩分の量が減ってきます。私達は一日、一〇〜一五gの塩で十分なのです。うす味にすると、水っぽくて食べた気がしない、と、よく聞きますが、だしを十分とってれば、おいしく食べられます。ゆず、しょうがを、こげめにつけて風味を出すのもおいしいものです。季節のもの、しょう油と砂糖の味つけで食べるには楽しみが半減します。野菜なら野菜そのものの味があるのです。その味を生かして口にできることを楽しみなのです。

次に日本で脳卒中の多発する所は秋田ですが、ここので食生活は、冬の間に、雪にうもれるために、つけれ

のを多量につけ込み、それを食するといわれます。米のおいしい所ですし、塩味の濃い副菜で多量の米飯を食べる習慣なのです。ひどくアンバランスな食生活であるわけです。うす味にする、と副菜を少量では食べたり副食の品数を増やすこと

になりません。動物性食品や野菜を十分とってバランスのとれた食生活習慣をつくるか、なめである主婦には大きな責任があるわけですね。各家庭にあった、うす味の食生活を工夫してみてください。おたくの塩かげんはどんなものでしょうか。

年末も押しせまると、郵便局もたいへん混み合います。年賀状、小包などの差し出しは早目に準備ください。

※小包は十二月十五日までに……小包は内容品に適した材料で包装して下さい。年賀状は十二月二十二日までに……年賀状は十二月

十五日からお引受けします。また官製と私製に分けて早目にお出し下さい。

※郵便物のあて名はくわしく完全に……団地、アパートあては「棟」、「室」、「番号」まで完全に、また下宿、間借り、同居人あてには「〇〇様方」の肩書を忘れなく。

※郵便番号も忘れなく。

お願い——郵便局から

寄付お礼

協 香 協 協
社 寄 社 社
福 寄 福 福
社 額 の 社 社
会 多 方 々
に 額 の 々 々
次 方 々 々
江 多 方 々
村 額 の 々 々
社 寄 社 社
会 額 の 々 々
議 返 として 多 額 の 寄 付 を 受 け 取 り ま せ ぬ こと と し て 寄 付 票 を 同 封 入 し ま す 。

また、高場徳繁氏、川辺子供会、中津江村人會から文化祭の時の金銭の使ったの厚くお礼申し上げます。
(香典返し) 敬称略
・永瀬時夫 亡一
・牛島シツ子 亡サト
・渡辺国広 亡アラツ
・松尾 守 亡ウメ
・石川五次 亡イヨノ
・長谷部忠夫 亡マサノ
・永瀬三好 亡政治
・吉本秋男 亡勤
・川原ナツ子 亡ユキノ
・永瀬和男 亡ユキノ

雑記

※ことしもいよいよ最後の月。日が短く、また忙がしくもあり、まごまごしている、と、一日が終ってしまふようです。町の商店では歳末大売出し、ジングルベルを鳴らしてあわただしさに輪をかけています。

子どもたちはクリスマス、お正月と冬休みを前にしてはしやぎまわり、お母さんは新年の準備でせかせかと走りまわり、だれもだれもが忙がしい、忙がしいと口ぐせになります十二月。時間のたつのが早いように感じられ、時間に追われそうです。時間を追いかける余裕がほしいものです。

